

活動報告書(見本)

キーワード1:リハ職連携
キーワード2:多職種連携
キーワード3:地域包括ケア

報告内容に適したものを記載

本文内容に合っている題名とする

題名(40字以内)

市内リハビリテーション専門職連絡会設立による地域における連携に関する取り組み

活動報告本文(1400文字以内)

活動報告のまとめ方を参考に作成

【取り組みの背景】

現在、各市町村における地域リハビリテーション活動支援事業など、様々な場面でリハビリテーション専門職(以下、リハ職)の活動が求められている。その中で、市町村レベルでのリハ職団体が必要とされてきている。当院がある市内でリハ職連絡会を設立し、活動を開始したことで様々な効果がみられた。訪問リハビリテーション(以下、訪問リハ)におけるリハ職連携の効果と課題および他職種との連携について考察する。リハ職連絡会の設立に向け、急性期・回復期病院、施設、在宅系事業所より委員を募り、設立準備委員会を結成し、設立準備を進めた。準備を進める中で、行政や医師会等の他職種団体と交渉し、市内で公的に認められる団体となるように努め、設立大会を開催し、設立に至った。

【課題の整理・抽出】

課題は様々みられたが、訪問リハに関わるリハ職連携では急性期や回復期と在宅のリハ職間に面識がなく、患者情報は書面のみでの申し送りとなっており、情報が不足していることがあった。また、それぞれの業務内容も知らないことが多く、それにより各施設間でお互いの不満にもなっていた。同一症例でも情報交換は少なく、病院から在宅へ継ぎ目のないサービス提供は難しい状況であった。また、行政を含む他職種との連携に関しては、地域ケア会議等へのリハ職の出席はなく、他職種連携は各事業所レベルに留まっていた。

【取り組み方法(内容)】

設立準備委員会での定期的な会議にて、参加者はそれぞれが顔の見える関係となるように努めた。連絡会理事及び会員とともに研修会や懇親会を行い、連携が行いやすい環境作りを行った。また、連絡会理事施設を中心に試験的な取り組みではあるが、回復期病院所属スタッフの訪問リハ事業所研修や訪問リハ事業所スタッフの急性期病院研修など相互の研修や、施設間での同一症例カンファレンスを実施した。また、書面での申し送りで不足している内容を電話で補うなど連携を強化するよう取り組んだ。

他職種連携については、医師会での在宅関連会議への参加や、行政との連携を強化し、地域ケア会議へのリハ職の派遣を連絡会として行った。

【経過および考察】

現時点では理事中心ではあるものの、急性期・回復期・生活期のそれぞれの施設において、顔の見える関係ができており、症例に関する報告や管理・運営に関する相談などを行った。それにより、急性期病院や回復期病院から退院した対象者の訪問リハにおいて、以前より情報共有が行いやすくなっている。

他職種連携に関しては、一部ではあるが地域の医師と顔の見える関係ができ、訪問リハ対象者の主治医(往診医)との連絡や相談が行えるようになった。行政とは、地域ケア会議に参加し、訪問療法士として、対象者の自立支援に資する検討や議論が行えるようになっている。

地域包括ケアが推進され、多職種連携を行っていくなかで、まずリハ職間連携を十分に行い、リハ職の意識統一を図ることが必要と考える。今回、リハ職連絡会を設立することで地域に必要とされるリハ職連携を行う土台が作ることができたと考えられる。訪問リハ場面において、急性期や回復期のリハ職と連携することで継ぎ目のないサービス提供を行うことができると考えられる。今後も、リハ職として地域包括ケアの一翼を担えるよう本連絡会を通して連携を深め、質の高い訪問リハサービス提供できるよう研鑽していきたい。